



TITLE:

支部通信

AUTHOR(S):

---

CITATION:

支部通信. 天界 1936, 17(187): 39-40

ISSUE DATE:

1936-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167347>

RIGHT:

---

**支部通信**

---

**京都支部・京星會だより (9月)**

爽涼の秋、同地同好者の親睦を目的に生れた京星會も創立來2ヶ年を送つた。その間幹事、會員の協力奉仕は會員間の連絡親睦に、共同研究觀測に、更に一般人士の天文科學知識普及に、小規模ながら1個の天文團體としての形式を備へしむるに到つた。70名の會員の結び固く、輝やかなしい第3年度へのスタートが切られた。

○**星光第1號** 本年度より會と會員に關する報道誌として毎期初に發行される事になつた。星光の第1號は14日發行された。内容は第3年度を迎へて、第3年度事業豫定、第3年度組織役員、第2年度會務會計報告、京都市内及び地方の70名の會員名簿、其他で100部發行、本號に發表された會計報告によれば第2年度總支出金は135圓に達し、幹事、會員よりの寄附金は30圓を超過してゐる。

○**回報** 會創立以來「京星速報」の名稱のもとに天文ニュース、會合通知等を官製葉書に印刷し隨時會員に發送されてゐたが、紙面の狹隘を感じ、第3年度からこれを「回報」とし花山急報と同形式の一定した用紙を使用し四種郵便で發送される事となり、第1號(下保彗星、ペルテア1彗星)、第2號(總會、觀望會)、第3號(會員動靜)が14日に發行、第4號(鷲座新星、DANIEL 週期彗星)、第5號(觀望會詳報)、第6號(會雜報)が22日に發行された。

○**定時總會** 第3年度定時總會は「天界」、「回報」にて發表された通り20日夜、樂友會館に於て開催された。生憎朝からの雨止まず出席者の少なかつたのは残念であつたが13名の出席者により豫定通り議事は進められ、第3年度に對する會の方針が發表され、各部擔當幹事の熱心な態度が示され、抱負が述べられた。茶話會に移り、興味ある小穴氏の北海道日食觀測談が1時間に涉り、22時30分閉會。

○**新星出現急報** 21日夕花山へ鷲座新星發見の電報到着と同時に本會觀測部に電話通知あり、直ちに幹事、會員間の電話連絡網が利用され有力機械所有者に通報された。一般會員には翌朝「回報」が發送された。

## 大 阪 支 部 通 信 (10月)

## ㊦支部報第13號發行

9月28日附支部報用紙2枚、第1頁會告欄仲秋名月觀賞會や天文氣象展覽會其他會告、第2頁談話室「北平觀象臺見學旅行記」(大連志龍須)等で賑ふ。別刷版は觀月會案内と月面圖1枚を400枚印刷尼崎圖書館報に添附發行。

## ㊦10月第1回例會開催

懸念された數日來の惡天候續きは仲秋名月觀賞會とした10月1日も朝來より曇天、剩つさへ夜に入つて降雨を見たので觀月會は中止されて、尼崎市立圖書館に於いて19時より、天文講話と天文幻燈を始める。先づ館長の挨拶あり、次に百濟支部長は「月の話」を1時間に亘り、聽衆約80名程に通俗的の話をされ、何れも興味多く傾聴し、西森氏は幻燈畫映寫の爲に「太陽系の話」を爲し、太陽系や恒星界の幻燈を映寫、一々百濟先生が解説をなし21時一先づ閉會。館員と本會員は別室にて再び天文座談會に移り、いろいろの天文談に時の經つのも忘れ、23時盛況裡に閉會。

## ㊦大阪天文研究會の紹介

天文研究會は昭和3年創立の歴史を有し會員全國に有し天文學の研究と普及、觀測の研究と指導、望遠鏡自作法の研究等を行ひ、機關誌「銀河」を年6回發行、每號50頁内外にて觀測法講座・指導記事・最近の天界便り・觀測部報告・誌上マーケット等連載。本部・會計部・編輯部・寫眞部・文庫部・觀測部(太陽・遊星面・月面・流星・變光星・掩蔽・彗星各課)に別かれ、部長・課長は O. A. A. 觀測部幹事をも兼任しつつある熱心な人々にて純粹なアマチュア天文團體で、顧問にも有名な天文學者を有して居ります。(詳細問合は大阪支部事務所宛にて)

## 大 阪 支 部 總 會

1. 日 時 11月21日(土)16時より
1. 會 場 大阪 Y. M. C. A. (市電肥後橋交叉點一ツ西ノ電停前)
1. 總 會 大阪支部昭和11年度總會
1. 懇親晚餐會 (會費 80錢)
1. 日食と天文映畫  
(他地方の方々も遠近よりお越し下さいませ)